



麻しんの発生について

千葉市中央区在住の20歳代の男性が、6月2日（金）に麻しんと診断され、千葉市内の医療機関から、千葉市保健所に麻しんの発生届がありましたので、お知らせします。

千葉市保健所では、感染可能期間中における当該患者の接触者の調査および健康観察を実施しています。

1 患者等の状況

(1) 患者について

- ア 年代、性別、職種
20歳代、男性、会社員
- イ 症状等
発熱、発疹、咳
- ウ 状態
症状消失し、回復している
- エ ワクチン接種歴および罹患歴
2回接種済み、罹患歴不明

(2) 接触者について

感染可能期間である5月23日（火）以降について、接触者の調査を行うとともに、接触者の健康観察を実施中です。

2 患者発生の経過

- 令和5年5月24日（水）発熱症状出現。
- 25日（木）市内医療機関Aを受診。
- 27日（土）市内医療機関Aを受診。
- 28日（日）発疹症状出現。
- 29日（月）市内医療機関Bを受診。検体（抗体検査）採取。夜に解熱。
- 6月 1日（木）発疹消失。市内医療機関Bを受診。
- 2日（金）市内医療機関Bより麻しん発生届の提出。
- 5日（月）市内医療機関Bを受診。検体（遺伝子検査）採取。
- 6日（火）千葉市環境保健研究所の遺伝子検査において麻しん陽性と判明。

3 麻しん患者が利用し、不特定多数の方と接触した可能性のある交通機関等

感染の可能性のある日時	交通機関名称等
5月24日（水） 13：00頃～14：00頃	J R 成田線 千葉～空港第2ビル
22：00頃～23：00頃	J R 成田線 空港第2ビル～千葉

※上記の交通機関を利用した方は、麻しん患者と接触した可能性があります。麻しんを疑う症状が現れた場合は、必ず事前に医療機関に連絡の上、医療機関の指示に従い受診する必要があります。

※なお、本事例に関わる医療機関、勤務先等の接触者を特定できる施設等については、保健所を通じて対象者の健康観察を実施しています。

4 本市における麻しん発生届出受理件数（千葉市内医療機関からの受理件数）

年（1－12月）	令和元年	令和2年～4年	令和5年
届出件数	3件	0件	1件

※令和5年6月7日現在（本件を含む）

<参考>

1 千葉市における麻しん対策について

千葉市では、過去に麻しんワクチン（混合ワクチンを含む）を接種していない方や、麻しん抗体検査の結果、抗体価が陰性の方などに予防接種の費用を助成しています。

(1) 予防接種について

ア 対象者

千葉市に住民登録があり、次の①か②のどちらかに当てはまる方

①昭和47年10月2日以降生まれで、過去に麻しんワクチン（混合ワクチンを含む）を1回も接種したことがない方

②昭和47年10月1日以前生まれで、麻しん抗体検査の結果、抗体価が低い方

イ ワクチンの種類 麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）

ウ 自己負担額 無料

エ 助成回数 1人1回まで

※過去に千葉市の助成事業を利用して麻しん風しん混合ワクチンを接種されたことのある方は対象になりません。

(2) 抗体検査について

希望される場合は直接近隣の医療機関へお問い合わせください。

なお、抗体検査に係る費用は全額自己負担となります。

市内の麻疹風疹混合ワクチン予防接種協力医療機関や、申し込み方法等の詳細については千葉市ホームページをご確認ください。

【千葉市ホームページ】麻疹風疹混合ワクチン任意予防接種費用助成のご案内

【URL】https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/hokenjo/kansensho/masinhuusin_hiyousei.html



2 麻疹の症状

感染すると通常10～12日後に38℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血などが約2～4日間続き、解熱後、再び39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われており、死亡する割合は、先進国で1,000人に1人と言われています。

3 感染経路

麻疹は麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。

麻疹ウイルスの主たる感染経路は空気感染で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症すると言われています。

また、発症した人が周囲に感染させる期間（感染可能期間）は、症状が出現する1日前から解熱後3日間までと言われています。

4 感染予防策

麻疹は予防接種が有効であり、2回定期接種の機会があります。

- ・第1期 1歳以上2歳未満
- ・第2期 5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の1年間

また、麻疹を発症した場合、学校や職場等で感染を拡大させるおそれがあるため、母子手帳などで予防接種歴を確認し、定期予防接種を2回受けていない方や予防接種歴が不明な方は、かかりつけ医などに相談の上、接種を検討する必要があります。

なお、麻疹を疑う症状が現れた場合は、感染拡大を防止するため、事前に医療機関に電話連絡でその旨を伝え、医療機関の指示に従い受診してください。

また、受診時は、周囲への感染を防ぐため、公共交通機関等の利用を避ける必要があります。

5 潜伏期間

約10日～12日間（21日間程度の場合もあります。）

6 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。